

第四編 式典

錦帯橋の再建工事に関しては起工式、渡初式、完工式の三式典が執行され、当時に於ける之等式典の模様については永田新之允氏著「錦帯橋史」に詳記されているところであるが、本編に於ては之等式典就中岩国未曾有の盛典と称せらるる渡初式の裏面史ともなるべき諸問題を捉え、補足的に若干説明を加えることにした。

一、起工式

昭和二十六年一月には中央方面に対する錦帯橋再建工作も軌道に乗り、工事費財源の見透しもつき、岩国市当局の起工準備も着々整備されて来たので速かに再建工事に着手することになり、二十六年二月八日には市議会施設委員会に於いて起工式の日取りを二月二十二日とする件を決定、翌九日の臨時市議会に諮ると共に、市会側よりも準備委員を出して事務当局に協力し、その準備を急速に進めることを決議した。

前日夜来の暴風雨で式典施設に相当の被害があつたにも拘わらず係員の努力によつて修復され式は予定通り午前十時開始、正午終了した。当日の式場は錦帯橋下、錦河原、祝宴場は横山岩国高等学校講堂とし、臨席者は総計三七四名（招待者数五三三名）に達した。

斯うした起工式は神事を伴うのを慣例とするが当時は日本が占領軍の行政下にあつて一般に神事は遠慮することになつていた為、之を省略し、式辞、祝辞の外に簡素な歛入、鉦削の儀が厳肅に行われた程度に過ぎなかつた。けれども此の式典は吉川広嘉公の墓前祭と共に岩国市民にとって待望、感激の一駒であり、錦帯橋建設史を飾るにふさわしい行事であつたことを忘れてはならないと思うのである。

二、渡初式

今回挙行された渡初式は従来屢々行われた一部架替時のそれとはその重要性及び規模に於いても雲泥の差があるのみでなく、普通橋梁の場合と違って道路であると同時に文化財であるということ及び竣工前の渡初であるという特殊の関係から行政上監督の立場にある官庁に於いてもその挙行の時期について重大な関心を持ち然も官庁間の見解に相違があつた為挙式の時期、方法を決定するに當つて岩国市当局は尠なからず悩まされたものである。

抑錦帯橋の再建工事は昭和二十八年三月三十一日完成を建前に予算が編成され国庫負担金も之を目標に支出されることになつていたが文化財の補助金は国家予算の都合上一部を昭和二十八年度に支出交付される公約となつていた。従つて岩国市当局としては之等關係官庁の意嚮を無視し飽く迄独自の見解に於て渡初式を挙行することは許されない事情に在つた。

(1) 渡初式挙行期日選定に関する關係官庁の見解

イ 建設省の見解

錦帯橋も道路である以上通行上支障なき状態となれば一日も早く一般交通の要に供すべきである。従つて全工事を終え竣工式と渡初式を併せ行うのが普通の慣例であるが、渡初式を切離し竣工前に挙行しても何等差支えはない。

ロ 文化財保護委員会の見解

(一) 渡初は竣工式に行うべきものであるから全工程終了後挙行すべきである。

(二) 錦帯橋は二十七年には完成しないということを経由として大蔵省と折衝し二十八年度に補助金を支出することになつてゐるから二十八年の三月三十一日以前に渡初式を挙行すれば、大蔵省は必ず既に竣工したものであるとの見解をとり、この補助金を削減され支出不可能となる虞れがある。

(三) 従つて仮りに渡初式を竣工前に挙行することが許されるとしてもその実施期日は二十七年(二十八年三月三十

一日)を経過した四月一日以後にすべきである。

というのであって両者全く対立した見解であつた。

(2) 挙式期日を一月十五日と選定した事由及び決定迄の経緯

岩国市当局の希望としては「架橋工事さえ終了すれば一日も早く開通せしむることは政策の面に於いても経済的にも有利であるが、非公式の形で渡初を挙行するのでは面白くない。矢張り堂々と正面から錦帯橋完成と打って出て、錦帯橋を天下に宣伝するという効果ある渡初式が挙行したい。その為には少くとも一、二月頃に渡初式を行い三、四月の花見季節を好機に観光客を誘致するのが最も時宜に適した施策である」という見解であつた。幸い錦帯橋の架橋工事は第四橋の架設により早くも十二月遅くも来春一月末完了は確実視されるに至つたので、久能市長は渡初式を一月十五日(成人の日)又は二月十一日(肇国の日、旧紀元節)とする意図を持つに至つた。

それにしても建設省の見解は吾が意を得たものであるが、問題は文化財保護委員会の「昭和二十七年度内挙式反対説」を如何にして建設省及び岩国市当局の見解と同調せしめるかが問題である。然かも挙式には相当の準備期間を要する關係上速かに問題を解決しなければならぬ。昭和二十七年十一月中旬錦帯橋建設局次長は市長の命を受けて上京、文化財保護委員会当局と交渉、説得に努めた結果、従来の主張が緩和され

イ 架橋工事が終了したので取敢えず通行を開始する意味で渡初式を挙行し、全工事竣工後改めて完工式を行うというのであれば差支えない。

ロ 但しそれが為には岩国市として次の措置を講ずること。

(一) 竣工前の渡初は異例に属するから文化財保護委員会に対し之が承認を求むる申請手続をすること。

(二) 新聞社等には事前によく連絡して竣工前の渡初であることをよく徹底せしめ一般殊に關係官庁方面に竣工したから渡初を行うのであるという錯覚を起さしめないう慎重を期すること。

という条件で諒解がついた訳である。尙文化財保護委員会としては渡初式挙行期日を一月十五日よりも成るべく二月十日とすることを希望した。

その後架橋工事は更に予定を早め十二月中旬には完成する見込も確實となったので久能市長は渡初式挙行期日を一月十五日とすることに決め、その旨を市議会に報告すると共に各新聞紙上にも発表し、十二月上旬より建設局を中心に積極的に準備を進めることを指示するに至った。

(3) 挙式準備及び実施要領

渡初式の挙行については錦帯橋建設局総務課に於て実施計画概要書を作成して予め市長の承認を得ていたもので之に基き挙式の準備は着々建設局の手によつて進められていたが、挙式当日は相当の混雑が予想され、到底建設局の人員のみを以つて遂行し得べくもない。仍つて十二月下旬市役所に渡初式準備委員を設け更には錦帯橋建設特別委員会、市議会全員協議会を開催して、建設局立案に係る実施要領につき審議を重ね、市当局、市議会一丸となつて岩国市空前絶後の盛典に備うることになった。

尙渡初式当日の実施模様等の細部については次の書表を参照のこと。

(一) 錦帯橋渡初式実施要領

附属図表 1 錦帯橋渡初式次第

2 渡初式場略図

3 渡初式序列編成

4 渡初式準備委員及び各係人員配置表

5 懇談会接待役割表(市会議員関係分)

6 同 臨席者名簿

8 各係事務分掌

(一) 渡初式参加三代夫婦調

(二) 同 招待者名簿

(三) 同 式典費決算内訳

錦帯橋渡初式実施要領(昭和二八、一、一二)

一、渡初式前広嘉公墓前奉告式を左の通り行う。

日時 一月十五日午前九時開始、同三十分終了。

参列者(直接工事関係者を除き随意とす)は午前八時五十分迄に紅葉谷墓所に集合。

式順序 一、修祓 二、降神 三、獻饌 四、祝詞奏上 五、奉告文朗読 六、玉串拜 七、撒饌 八、昇神

一、渡初式は午前十時より別紙の通り挙行す。

一、右渡初終了後成人式参加青年及び錦見、今津両組の大名行列渡橋あり(旧藩主乗用籠参加)て一般の通行を認む。

一、式に関する業務は別に定むる分掌により別表第一の編成を以って執行す。

一、来賓等の接待

1 開式前の外來客、三代夫婦の休憩所として橋畔の旅館を借上げ充當し茶菓の接待を行う。

2 式後午後一時より来賓に対する招待宴を催す。

3 以上各項の接待については別表第二の区分により市会全議員の協力により万全を期す。

4 右の外遠隔よりの来賓に対しては別表第二の如く特別の係員を置き宿泊所の案内その他一切の御世話をする。

5 来賓等送迎用に乗用車五台(市有を含む)市営バス貸切三台を備え必要に応じ岩国駅、西岩国駅案内所に於て市バ

ス乗車券を交付す。

- 6 所謂三代夫婦は八組（四十八人）とし、之が送迎、接待等は総て關係支所長の担任とする。
- 7 高校講堂の式場は狹隘につき講堂外に臨時席を設く、市の内部關係者は成るべく臨時席に着席するよう配慮せらるること。

- 8 高校講堂入口受付にて案内状と引換えに土産品を交付す（来賓、駐苗軍、三代夫婦を除く）
尙直会用としては別に皿盛料理、酒壇を配置す。

- 9 招待者約九百二十人、出席七百五十名を予定す。

一、交通取締

- 1 当日錦帯橋の両側には市警警官二十余名の協力を得て一般交通及び橋上の通行整理を行う。
- 2 来賓等の自動車は特別の場合を除き高校入口脇に集結せしめ錦見側橋畔には駐車せしめず。

一、其の他

- 1 錦見側適宜の地点に救護班を設置す（岩国保健所より医師一名、看護婦一名出張）
- 2 式場の外錦見側橋畔にマイクを設置し一般公衆への告示、伝達業務連絡用に供す。
- 3 自転車預り所を深川前旧車庫に設く。

錦帶橋渡初式次第

錦河原式場(別図一)

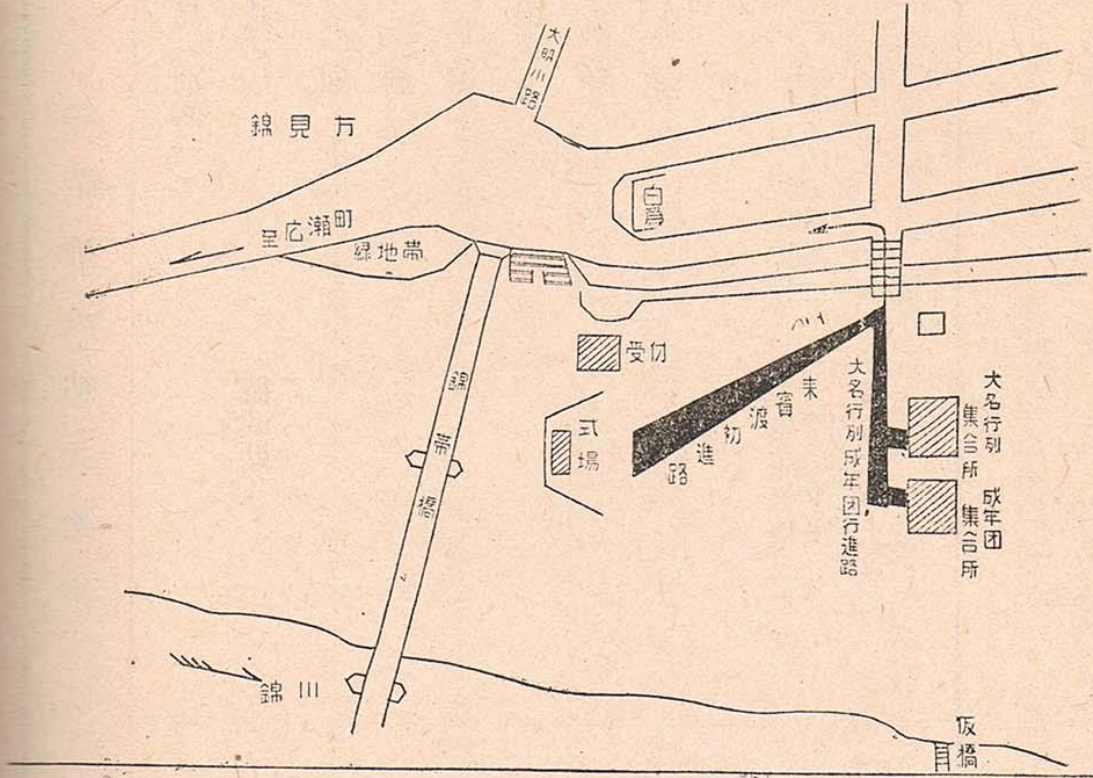
- | | | |
|----|-----------|-----------------|
| 1 | 拳式之辞 | 德政助役 |
| 2 | 修祓 | |
| 3 | 降神 | |
| 4 | 獻饌 | |
| 5 | 祝詞奏上 | |
| 6 | 玉串拜 | |
| 7 | 撤饌 | |
| 8 | 昇神 | |
| 9 | 渡初(序列別図二) | 午前十時三十分
開始予定 |
| 10 | 撒餅 | 序列通過後第二橋上にて |

高校講堂式場(別図一)

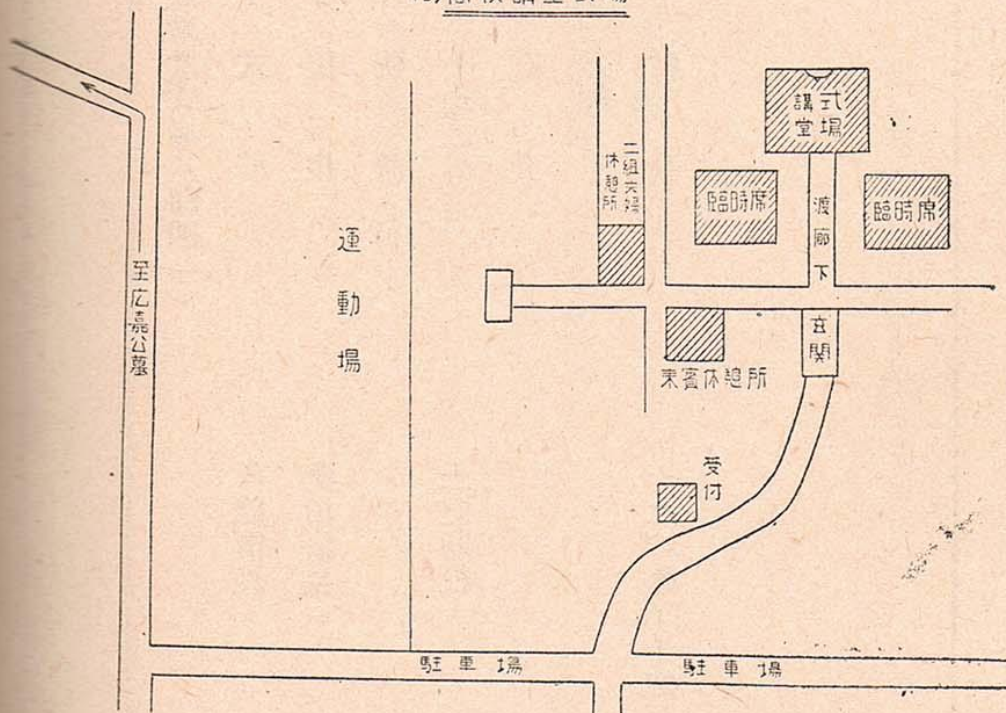
- | | | |
|---|------|---------|
| 1 | 式辞 | 久能市長 |
| 2 | 挨拶 | 桑田議長 |
| 3 | 祝辞 | |
| 4 | 閉式之辞 | 土肥助役 |
| 5 | 直会 | |
| 6 | 万歳三唱 | |
| 7 | 散会 | 十二時終了予定 |

渡初式場略圖

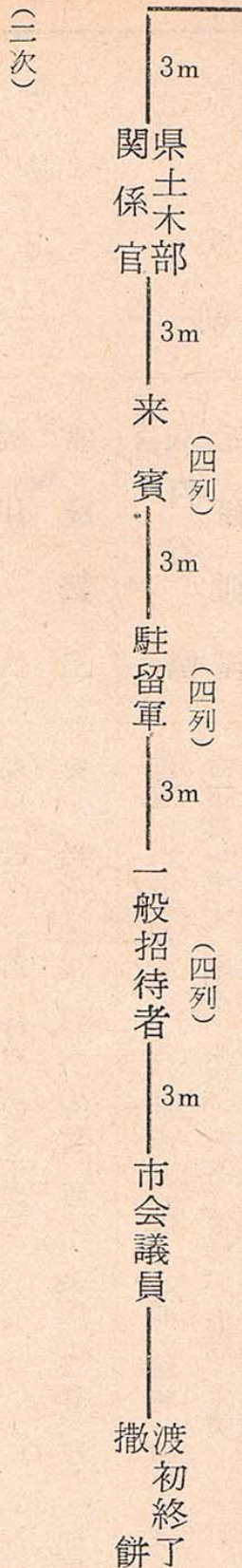
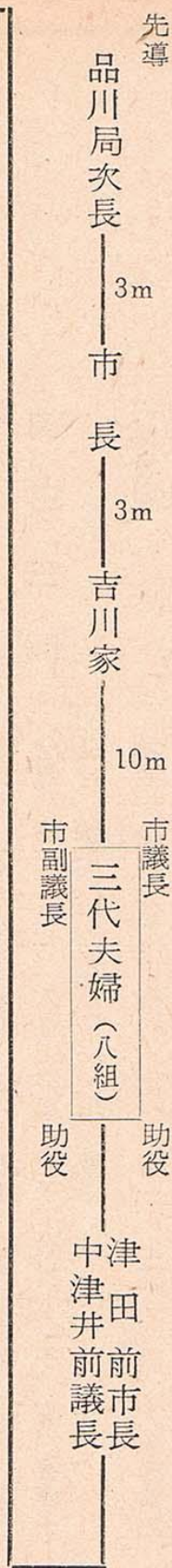
(1) 錦河原式場



(2) 高校講堂式場



渡 初 序 列 編 成



成人式参列青年 — 大名行列

- 考
- 1 序列は錦川原式場より錦帯橋取付迄の間に於て逐次編成し行進に移る。
 - 2 序列は途中編成を解かずそのまま高校式場に入る。
 - 3 行進間の間隔は成るべく守っていただくこと。
- 備

別表一

錦帯橋渡初式準備委員及各係人員配置表

委員長 助役 德政 繁生		副委員長 品川 資	
部		担	
總務 伊藤 正一	庶務 美川 武	山本 高夫、豊田 香、柳川 寿之、吉木 友彦、渡 信子	森重 徳子、村重 球光、佐々木俊一
宴用品 岡 宗則	宴用品 八百谷 悟	塩繁 四郎、馬場 透、長尾 二郎、三浦 健蔵、藤川 武男	白銀屋かず子、藤本 久雄、山本 正雄、上村 年美
接待 田島 元	接待 白木 末夫	弘中 良介、広田 博、大島 憲二、福島 暁、堀 真	岡 岩雄、田坂 寿雄、三原 郁子、藪下 行江、藤枝 正義
式場設備 若松 正男	接待 河田 三郎	坂本 三男、松本 清、村井 一登、河野 孝雄、浜国 来	村上 壺、木村 一郎、田中 敏雄、柳川天流生、平野 賢一
施設 八賀 盛蔵	野村 正男	米屋 忠夫、昭田 竜雄、赤岸 吾一、上田 真、大久保欽次	村元 三郎、森岡 義則、三戸 真行

錦帯橋渡初式終了後における懇談会接待役割表

(議会議員関係の分)

区	分	場所	接待	役
(一)	各省関係者、国会議員等	深川	桑田 議長、小川副議長、塩井 亮吉、重本 真、柏村 正一、市岡 時夫 前西 竜平、坂井 正夫、浅村 丹、浜重 甫、松田 清一(十一名)	
(二)	各界部課長等	半月	森橋 新一、江本平三郎、森岡 勝、村井 勇、木戸 正一、西野 究 木村 栄作、正木 勇 (八名)	
(三)	市長等	久義万		
(四)	市議長等	油政	古田 政美、中山千代一、朝倉 正晃、瀬村 感、竹中 七輔、河上 佳生 杉田朝次郎、渡辺 泰深 (八名)	
(五)	県会議員等	三原屋	粟屋 衛、木原 宏作、森重 弁一、富沢 茂、沖村初次郎、川村 義光 井本 トシ、岩村 正夫、中沢 徳雄 (九名)	

備考 正、副議長は(四)の市議長等の招待を兼ねるものとする。(昭二八、一、一五)

尙東京方面よりの来客に対する送迎旅館の斡旋及び在岩中の接待は左の通り関係各課長に於て担任するものとする。
主要来賓に対しては左記課長専従し接待に当る。

専従者 都市計画課長、土木課長、総務課長、人事課長、財政課長

尙三代夫婦については各関係支所長、駐留外人関係臨席者の接待は西川忠夫涉外係担任す。

別表第二ノ一

一、市長招待
議長招待

招待宴臨席者名簿
十五日午後一時
場所 深川

(順序不同)

×印欠席

職名	来賓者名	職名	来賓者名	職名	来賓者名
建設大臣	佐藤 栄作	× 商工部長	知事公室長	前市長	津田 彌吉
秘書	大津 正	建築部長	小田 義男	工学博士	青木 楠男
建設省防災課長	賀屋 茂一	× 教育長	今津 重蔵	〃	佐藤 武夫
工学博士	森 徹	〃 教育長	野村 幸裕	〃	十代田 三郎
文化財技官	吉川 需	県会議長	二木 謙吾	前市會議長	中津井 実
国会議員	重宗 雄三	十市々長会長	山下 太郎	〃	吉川家代表者
〃	栗栖 赴夫	十市々會議長会	長井 秋穂	〃	安原 武夫
× 〃	西村 茂生	中四国建設局長	伊藤 令二	〃	岡 本 悟
× 〃	青柳 一郎	毎日新聞西部社	藤原 勘治	〃	磯 崎 毅
〃	受田 新吉	〃 事業部長	富岡 昭	× 広島国税局長	松田 文蔵
重宗氏 秘書	大津 秀雄	中国新聞社長	山本 実一	防府放送局長	宮田 孝造
県知事	田中 竜夫	防長新聞社長	佐々木 健児	玖珂郡町村会	森本 会長
× 副知事	小沢 太郎	広島放送局長	杉本 亀一	朝日新聞	朝日新聞代表
× 県総務部長	橋本 正之	中国財務局長	森岡 謹一郎	自治庁選挙管理	榎沢 藤兵衛
土木部長	永井 重雄	前市長	永田 新之助		

一、市々議會側出席者 久能市長、助役外数名
 桑田議長、副議長、各委員長
 一、接待担任者 錦生土木港灣課長
 備考 一部を除き式場より徒歩にて深川に至る。

別表第二ノ二

二、市長招待		招待宴臨席者名簿 (順序不同)		×印欠席	
職名	招待者名	職名	招待者名	職名	招待者名
中財理財部長	多賀 義高	× 県総務部財政課長	福井 桂	〃 庶務課長	藤井 三郎
〃 融資課長	原 猛	〃 文化弘報課長	岡田 隆	岩土木出工務課長	杉本 慎吾
広島局放送部長	牧 真	教育庁社教課長	佐藤 寿郎	〃 經理課長	平尾 常之進
× 教育庁次長	金津 新治	岩土木出所長	梅村 吉朗	建設省技官	樋口 哲司
県土木部監理課長	若林 豊	山口県東京出張所技師	木村 正勝	〃	重兼 暢夫
〃 河港課長	行友 誠	広島局放送道課長	金子 喜三郎	〃	岩田 隆
〃 道路課長	伊木 茂	防府局放送課長	山賀 雅彦	〃 事務官	吉田 直人
〃 課長	岡村 政熊	県庁土木部河港課	山田 米雄	〃	齊藤 光男
〃 計画課長	中野 儀三人	〃	岩本 忠雄	〃	西内 彦三郎
県商工部觀光課長	岩本 高登	× 県庁総務部行政課	河野 英男	県河港課次長	安部 武雄
総務部地方課長		教育庁文化係長			

市側、市会側出席者 (別に定む)
 接待担任者 岡人事課長、森脇財政課長
 備考 式場より徒歩にて半月へ

外来客宿泊、日程等一覽(順序不同)

昭和二八、一、一二現在

職名	氏名	到着(場所)日時	出発日時	宿泊所	宿泊日数	備考
参議院議員	重宗雄三	十四日(岩国駅)十五時二十分	十六日	深川(白雲荘)	二	山口へ
秘書	大津秀雄	"	未定	"	"	"
建設省防災課長	賀屋茂一	"	"	"	"	"
" 課課員	重兼暢夫	"	"	"	"	"
"	樋口哲司	"	"	"	"	"
"	岩田隆	"	"	"	"	"
"	吉田直人	"	"	"	"	"
"	斉藤光男	"	"	"	"	"
"	西内彦三郎	"	"	"	"	"
県土木部長	永井重雄	十四日(岩国駅)十四時十五分	十六日	"	二	山口へ
" 部 監理課長	若林豊	"	"	"	二	"
" 部 臨港課長	行友誠	"	"	"	二	"
" 部 道路課長	伊木茂	"	"	"	二	"

徳山
黒神直久
下松
石井成就
萩
安村正人
右各随行者

市側出席者(別に定む)
接待担任者 伊藤総務課長
備考
式場より徒歩にて錦帯橋錦見側に至り、同所よりバスにて

徳山
国氏幸彦
下松
武居謙助
萩
吉賀要作
右各随行者

市側出席者(別に定む)
接待担任者 村岡事務局長
備考
式場より錦帯橋錦見側に至り、同所よりバスにて

一、庶務係

- | | | | | | |
|---|----------|---|----------|---|---------|
| 1 | 案内状の発送 | 2 | 案内状回答の整理 | 3 | 係章の作製交付 |
| 4 | 式場、会場の進行 | 5 | 祝詞者の選定交渉 | 6 | 祝電の読上 |
| 8 | 他係との連絡調整 | 8 | 記録整理 | 9 | 会計一般 |

一、弘報係

- | | | | | | |
|---|-----|---|----|---|----------|
| 1 | 座談会 | 2 | 放送 | 3 | 市中行事との連絡 |
|---|-----|---|----|---|----------|

三、受付係

- | | | | |
|---|-----------------------|---|-----------------|
| 1 | 会場に於ける招待者の受付 | 2 | 自転車の看守（合鑑準備のこと） |
| 3 | 土産品（折詰、五橋酒、瓶詰、記念品）の交付 | 4 | 受付係の設備並びに表示 |

四、接待係

- | | | | |
|---|-----------------------|----|----------------------------------|
| 1 | 市外招待者の出迎（自動車交渉） | 2 | 旅館の斡旋、旅館に於ける接待 |
| 3 | 駐苗軍、大臣、知事、吉川家等の休憩室の準備 | 4 | 同上休憩室への案内、湯茶、菓子接待 |
| 5 | 前記接待用品の購入 | 6 | 休憩室の表示 |
| 7 | 式場、会場着席案内 | 8 | 開宴接待 |
| 9 | 高官等の送り届け | 10 | 但し外来客、主賓の接待については別に専従の係を設け担当せしめる。 |

五、宴用品係

- | | |
|---|----------------------------------|
| 1 | 土産品（折詰、五橋酒瓶詰）の購入、記念品の整備及び受付係への送達 |
| 2 | 皿盛料理及びカン酒・ビールの購入並びに運搬 |

- 3 宴用什器（皿、盃、栓拔、コップ、灰皿）等の準備
 - 4 宴用品（土産品を除く）の配置
- 六、式場（錦河原）設備係

1 テント、演台、机、椅子等の設置

2 拡声器の備付

3 式次第の掲示

4 生花、国旗等の式場装飾

5 着席の表示

6 式場の表示

7 撤去、跡片付け

七、祝宴会場（岩高講堂）設備係

1 演台、机、椅子等の設置

2 拡声器の備付

3 生花、国旗等の会場装飾

4 会場の表示、道順表示

5 着席表示

6 祝宴次第の掲出

7 休憩室の整備

「注 意」

一、各係で物品の購入借用をするときは予め庶務係会計担任者に連絡すること（購入伺を必要とするものはその手続をとること。）

二、各係で購入、借用したものはその係で責任を以って支払い返還をなすこと。

三、支払上必要ある時は会計担任者から資金の前渡しをうける事。

四、祝宴会場の後始末は式場設備係以外の係員も協力して完了すること。

五、心算を前記の通り定めるとき各係は互に協力すること。

錦帶橋渡初式三夫婦調

×印は当日不参加

住所及び職業		初代 夫婦		令年		二代 夫婦		令年		三代 夫婦		令年		摘要
川 下 精 米	高藤柳吉 妻 明治十一年八月九日生	上村米太郎 妻 明治四年四月十五日生	75	82	72	76	82	75	82	72	76	82	75	
	柳吉二男 勇一 妻 明治三十四年九月一日生	米太郎長男 三治 妻 明治二十八年一月一日生	52	58	47	55	58	52	58	47	55	58	52	
	勇一長男 博 妻 大正十二年二月十五日生	三治長男 悟 妻 大正十三年二月二十三日生	30	29	27	24	29	30	29	27	24	29	30	
	大正十五年五月九日生	昭和四年一月十二日生	27	24	27	24	27	24	27	24	27	24	27	
愛 宕 農 業	藤岡喜太郎 妻 明治四年一月八日生	黒本軍太郎 妻 明治四年十一月二十二日生	82	82	77	82	82	82	77	82	82	82	77	
	喜太郎長男 成論 妻 明治二十九年三月二十日生	軍太郎長男 喜三 妻 明治二十五年四月五日生	57	61	53	55	61	57	61	53	55	61	57	
	成論二男 喜一 妻 大正八年十月十三日生	喜三人長男 克己 妻 昭和三年三月二十日生	34	25	29	24	25	34	25	29	24	25	34	
	大正十三年二月十九日生	昭和六年九月九日生	29	22	29	22	29	29	22	29	22	29	29	
×愛 宕	村兼宮榎 妻 明治十二年十二月十三日生	妻 明治十三年一月十日生	84	82	73	84	82	73	84	82	73	84	82	
	宮榎長男 正 妻 明治三十二年十月十一日生	妻 明治四十二年三月六日生	54	61	44	54	61	54	61	44	54	61	54	
	正長男 馨 妻 昭和二年五月十三日生	妻 昭和五年九月五日生	26	25	23	26	25	26	25	23	26	25	26	
	昭和五年九月五日生	昭和五年九月五日生	23	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	村兼宮榎氏 出席を望まぬ 為め依頼せず

× 柱 島	麻里布	麻里布 農業	麻里布 精米	麻里布 料亭
妻 松重 由太郎 明治十年六月十四日生 明治十年八月二十七日生	妻 松浦熊次郎 明治十二年一月二十七日生 明治十九年三月二十八日生	妻 市木右一 明治九年五月一日生 明治十二年七月十三日生	妻 米屋寅 明治四年三月二十五日生 慶応二年七月十四日生	妻 釘屋万次 明治十六年十二月十日生 明治十二年六月十三日生
75	74	77	87	70
妻 長男 由雄 明治三十二年五月五日生 明治二十九年二月十三日生	妻 岩一 明治三十六年二月五日生 明治四十一年四月九日生	妻 与 明治三十七年三月五日生 明治三十八年二月十五日生	妻 才助 明治二十五年七月五日生 明治三十二年五月十五日生	妻 義雄 明治三十八年十二月十日生 明治三十九年七月二十日生
56	50	49	61	48
妻 長男 千歳 大正十年十二月八日生 大正十四年三月十三日生	妻 富美子 大正十四年一月二十四日生 昭和二年八月二十八日生	妻 昭子 大正十四年十一月二十日生 昭和四年一月十一日生	妻 数夫 大正七年十一月三日生 昭和四年五月八日生	妻 美江子 大正十四年三月九日生 昭和二年十一月五日生
27	28	28	35	28
欠 席				

職名	建設大臣	前大臣	政務次官	事務次官	技官	監察官	道路局長	補修課長	河川局長	前河川局長	河川局次長	大臣秘書	河川局水政課長	防災課長	技官	重兼	野田	関田	樋口	広田
氏名	佐藤榮作	増田甲子七	野田卯一	三池信	稲浦鹿蔵	菊池昭	樺島正二	富樫凱一	近藤鍵武	田正父	目黒清雄	大津正	宮前憲三	賀屋茂一	篠公平	重兼暢夫	野田利朗	関田周三	樋口哲司	広田久重
出席	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	○	×	○	×	×	○	×
記念品贈	○	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

職名	建設省防災課技官	石川和民	舟津常一	稲垣吉太郎	保田江文	早内舟夫	山岸俣男	小島与造	駒井茂二	峯村清俊	岡沢重利	松井浩三	根岸伝二郎	関田育	佐藤昇	重元良夫	福田早水	長光喜一	有泉文雄	森田記正	永田二生	三宅康夫
氏名	石川和民	舟津常一	稲垣吉太郎	保田江文	早内舟夫	山岸俣男	小島与造	駒井茂二	駒井茂二	峯村清俊	岡沢重利	松井浩三	根岸伝二郎	関田育	佐藤昇	重元良夫	福田早水	長光喜一	有泉文雄	森田記正	永田二生	三宅康夫
出席	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
記念品贈	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

四三	建設省防災課技官	坂井秀正	×	○
四四	"	星義雄	×	○
四五	"	我妻壽	×	○
四六	"	岩田隆	○	○
四七	"	大西信久	×	○
四八	"	山本忍	×	○
四九	"	峯本	×	○
五〇	"	渋谷一友	×	○
五一	"	吉田直人	○	○
五二	"	小寺勉	×	○
五三	"	西内彦三郎	○	○
五四	"	加山淳	×	○
五五	"	税所国雄	×	○
五六	事務官	田中甲三	×	○
五七	"	徳永公	×	○
五八	"	星	×	○
五九	"	齊藤光男	○	○
六〇	建設研究所長	森徹	○	○
六一	北海道開発庁地政課長	酒井信男	×	○
六二	全国災害復旧速達連盟	内山岩太郎	×	○
六三	法務大臣秘書	大島高	○	○
六四	文部大臣	岡野清三	×	○
六五	"	三浦英三	×	○

六七	" 事務次官	高橋誠一郎	×	○
六八	文化財 委員長		×	○
六九	衆院文部委員長		×	○
七〇	参院文部委員長		×	○
七一	文化財協会理事	富士川金二	×	○
七二	文化財保護院 事務局長	森田孝	×	○
七三	文化財記念物課長	浦谷吉雄	○代	○
七四	"	吉川需	○	○
七五	文化財建造物課長	関野克	×	○
七六	" 管理課長	西田剛	×	○
七七	" 次 長	山田秀吉	×	○
七八	" 企画連絡課長	蒲生芳郎	×	○
七九	文化財事務局次長		×	○
八〇	" 企画連絡課員	桑原正三	×	○
八一	" 建造物課	大滝正雄	×	○
八二	前衆院文部委員長	岡 延右衛門	×	○
八三	東北帝大教授	大丸秀雄	×	○
八四	文化財保護委員	細川護立	×	○
八五	"	矢代幸雄	×	○
八六	"	一万田尙登	×	○
八七	"	有光次郎	×	○
八八	"	内田三三	×	○

九一	文化財天然記念物課	黒板昌夫	×	○
九二	大蔵大臣	向井忠晴	×	×
九三	前大臣	池田勇人	×	×
九四	政務次官	愛知撥一	×	×
九五	事務次官		×	×
九六	元地方自治庁政務次官	小野野哲	×	×
九七	主計局長	河野一之	×	○
九八	元中国財務局長	塚本一郎	×	×
九九	地方自治庁委員長	野村秀雄	×	×
一〇〇	次長	鈴木俊一	×	×
一〇一	委員	上原六郎	×	○
一〇二	"	荻田保	×	○
一〇三	"	吉永	×	×
一〇四	"	菊山嘉男	×	×
一〇五	理財局 資金課	大角武	×	○
一〇六	"	新飯田美津男	×	○
一〇七	"	山本正男	×	○
一〇八	選挙部管理課長	桜沢藤兵衛	○	○
一〇九	財政部長	武岡憲一	×	○
一一〇	財政課長	奥野誠亮	×	○
一一一	課員	山本晴男	×	○
一一二	"	河村榮	×	○
一一三	理財課長	細郷道一	×	○
一一四	課員	首藤堯	×	○
一一五	"		×	○
一一六	"		×	○
一一七	"		×	○
一一八	"		×	○
一一九	会計検査院院長	佐藤基勝	×	○
一二〇	"	東谷伝次郎	×	○
一二一	"	加藤進	×	○
一二二	検査官総長	池田直	×	○
一二三	"	山名酒喜男	×	○
一二四	次長	小峯保榮	×	○
一二五	第二局長		×	○
一二六	第四局長		×	○
一二七	檢第三局 建第一課	中島洵文	×	○
一二八	第二課長	小原剛	×	○
一二九	副長	鶴見隆文	×	○
一三〇	"	岡田正雄	×	○
一三一	秘書官	田代剛	×	○
一三二	川家	吉川元光	×	○
一三三	"	吉川重国	×	○
一三四	"	吉川重喜	×	○
一三五	"	園乾治	×	○
一三六	"	吉田信男(代理)	○	○
一三七	評論家	河上徹太郎	×	○
一三八	市長	津田彌吉	○	○
一三九	"		×	○
一四〇	"		×	○

一三九	市	嘱託	瀬川秀雄	×	○
一四〇	〃	〃	佐藤武夫	○	○
一四一	〃	〃	青木楠男	○	○
一四二	〃	〃	石川栄耀	×	○
一四三	早大	教授	十代田三郎	○	○
一四四	〃	〃	大熊喜邦	×	○
一四五	〃	〃	田中豊	×	×
一四六	〃	〃	鈴木雅次	×	○
一四七	〃	〃	松井源吾	×	○
一四八	日大	教授	成瀬勝武	×	○
一四九	工大	教授	谷口三郎	×	×
一五〇	宮崎大学	教授	中島茂	×	×
一五一	〃	〃	竜居松之助	×	×
一五二	愛知県土木部長	〃	大野唯糊	×	×
一五三	山口県東京出張所長	〃	高尾織二	×	○
一五四	〃	次長	兼重朝輔	×	○
一五五	〃	技師	梅村吉朗	○	○
一五六	参院議員	〃	重宗雄三	○	○
一五七	〃	〃	栗栖赳夫	○	○
一五八	〃	〃	中川以良	×	○
一五九	衆院議員	〃	青柳一郎	○	○
一六〇	〃	〃	久原房之助	×	○
一六一	〃	〃	吉武惠市	×	○
一六二	〃	〃	〃	×	○

一六三	衆院議員	西村茂生	×	○
一六四	〃	受田新吉	○	○
一六五	〃	西川貞一	×	×
一六六	〃	今澄勇	×	×
一六七	重宗雄三秘書	大津秀雄	○	○
一六八	山口県知事	田中竜夫	○	○
一六九	〃	小沢太郎	×	×
一七〇	〃	橋本正之	×	○
一七一	〃	永井重雄	○	○
一七二	〃	若林豊	○	○
一七三	〃	門野千里	○	○
一七四	〃	行友誠	○	○
一七五	〃	安部武雄	○	○
一七六	〃	山賀雅彦	○	○
一七七	〃	渋谷正勝	×	○
一七八	〃	山田米雄	○	○
一七九	〃	田中清治	○	○
一八〇	〃	井上保	○	○
一八一	〃	中野	○	○
一八二	〃	古蹟	○	○
一八三	〃	伊木茂	○	○
一八四	〃	岡村政熊	○	○
一八五	〃	長岡	○	○
一八六	〃	〃	○	○

三七八	岩国自動車営業所長	三	谷善造	○	四〇〇	岩国自動車営業所用品庫長	川上繁夫	○
三七九	岩国電報局長	二	武貢	○	四〇一	〃 助 役	村重富士雄	×
三八〇	西岩国電報電話局長	花	田芳男	○	四〇二	広島鉄道管理局長	磯崎 徹	○
三八一	岩国郵便局長	野	村数夫	○	四〇三	国鉄徳山駐在運輸長	山崎鯉三郎	○
三八二	西岩国 〃	小	六一夫	○	四〇四	下関測候所長	久塚清太	○
三八三	県 監 視 官	永	井豊秋	○	四〇五	向道ダム監理事務所長	泉本正人	○
三八四	山口財務部岩国出張所	岡	村初太郎	○	四〇六	融資課運用第二係長	下口 勇	×
三八五	元県河港課長	鷺	崎文雄	×	四〇七	東京駅車掌区長	野口景敏	×
三八六	運輸省観光課長	間	島大二郎	×	四〇八	〃 首席助役	小川信一	○
三八七	中国財務局長	森	岡謹一郎	○	四〇九	東京三河島駅長	大森富男	×
三八八	〃 理財部長	多	賀義高	○	四一〇	前国警政東署長	伊藤権十	×
三八九	国鉄法務課長	鶴	沢勝義	×	四一一	前国警山口県本部長	中川 薫治	×
三九〇	広島陸運局長	岡	本悟	○	四一二	広島郵政局長	安原武男	○
三九一	運輸次官	木	村公平	×	四一三	〃 郵政部長	石川 義憲	○
三九二	中・四国建設局長	清	水新治	○	四一四	入国監理庁岩国港分室	佐東武雄	○
三九三	国鉄広島資財事務所主幹	清	水新治	○	四一五	検疫所岩国出張所	山下喜明	○
三九四	中国財務局融資課長	原	山 猛	○	四一六	土木出張所	栗飯原(和)技師	○
三九五	会 計 員	秋	山 泰	×	四一七	〃	大内(勘)技師	○
三九六	〃	大	藤君夫	×	四一八	土木技師	石川 希之	○
三九七	〃	福	島邦明	○	四一九	主 事	角 田 典	○
三九八	人事院広島地方事務所長	藤	井 豊	○	四二〇	広鉄施設部長	桜井 豊三	○
三九九	中・四国地方建設局大竹出張所長	中	村春樹	○	四二一	〃 総務課長	一 田 正喜	○
					四二二	〃 総務課	原 敏夫	○

四三三	廣島國稅局長	松田文藏	○	×
四三四	柱島郵便局長	觀喜賢周	○	○
四三五	海士路	石川國守	○	○
四二六	川下	山本武守	○	○
四二七	藤生	柵田武	○	○
四二八	愛宕	沖村与	○	○
四二九	新港	茶谷徹	○	○
四三〇	川西	手島宗次	○	○
四三一	岩國消防團團長	戸沢菊次郎	○	○
四三二	分團長	吉田勝利	○	○
四三三	"	村中竹友	○	○
四三四	"	木村周造	○	○
四三五	"	橋本忠幸	○	○
四三六	岩國商工会議所 會頭	安場保國	○	○
四三七	"	小林銀一郎	○	○
四三八	"	八百屋取	○	○
四三九	" 専務理事	松村省一	○	○
四四〇	岩國保勝會會長	手島正二	○	○
四四一	長山保勝會會長	島司守	○	○
四四二	柱島	桑原英雄	○	○
四四三	岩國觀光協會副 會長	伊藤将英	○	○
四四四	岩國信用金庫理事	河村榎男	○	○
四四五	岩國更主會會長	久代 文	○	○

四四七	岩國農業共同組 合柱島支部長	牧野七郎	○	○
四四八	" 新港支部長	村重隆助	○	○
四四九	" 麻里布東支部長	村本信三	○	○
四五〇	" 麻里布支部長	稻田武雄	○	○
四五一	"	沖本源四郎	○	○
四五二	" 離支部	浜崎庄市	○	○
四五三	岩國漁業協同組 會長	島田梅一	○	○
四五四	" 柱島支部長	笹井浪平	○	○
四五五	觀光協會會長		○	○
四五六	" 理事		○	○
四五七	岩國消防團第二 分團長	小林孝市	○	○
四五八	" 第五分團長	白井武	○	○
四五九	岩國青年協議會會長	国光俊夫	○	○
四六〇	岩國婦人会(錦見)	山形榮子	○	○
四六一	橋本町親愛會		○	○
四六二	岩國銀座會會長		○	○
四六三	川下商工連盟會會長	吉岡種一	○	○
四六四	帝人勞組	坪内藤義	○	○
四六五	帝人製機勞組	河上佳生	○	○
四六六	東洋紡勞組	井下国明	○	○
四六七	中国電力勞組	糸杉友彰	○	○
四六八	日本通商會		○	○
四六九	岩國青年協議會		○	○

四七〇	山口県市役所 組協議会委員長	伊藤孝文	○
四七一	同 副委員長	花田三郎	○
四七二	鶴飼觀光協会 会長	岩見屋保	○
四七三	岩国美術協会 会長	松田康一	○
四七四	横山協会委員 長	熊谷操	○
四七五	帝人工場長	山本利三	○
四七六	帝人検	小野三郎	○
四七八	山ハル	井上親之	○
四七九	東洋紡	野口英二	○
四八〇	日本紙業	角本梅松	○
四八一	興亜石油	佐藤英三	○
四八二	日本燃料	杉本保也	○
四八三	義濟堂	北村可太郎	○
四八四	中国電力	菊元小一郎	○
四八五	清水商会	須沢義人	○
四八六	河山鋳山	清水豊一	○
四八七	山口銀所岩国支店	野村英一	○
四八八	麻里布支店	大原秀夫	○
四八九	広島銀行岩国支店	永田正造	○
四九〇	今津支店	齊木勤	○
四九一	西日本相互銀行	飯田雪雄	○
四九二	山口相互銀行	通山昇男	○
四九三	岩国竹材	吉田誠	○

四九四	日本銀行 岩国支店長	安田三郎	○
四九五	山口銀行本店	羽田一利	○
四九六	帝人本社	渡辺庶務部長	○
四九七	岩国今津八幡下	煙石三子	○
四九八	石川県北野村	豊岡ヤス子	○
四九九	義齊堂職員組合 長	宮尾文治	○
五〇〇	在日大韓青年 團岩国支部	白木正人	○
五〇一	大阪市	吉洪根	○
五〇二	岩国稲荷講代表	沖村キヨ	○
五〇三	山口市湯田	白銀品次	○
五〇四	岩国市魚町	西村屋旅館	○
五〇五	岩国市材木町	宇垣一成	○
五〇六	岩国市錦見四二〇	魚谷徳夫	○
五〇七	岩国市鉄砲小路	岩井清	○
五〇八	岩国市	恩田保雄	○
五〇九	岩国市	白銀エリ	○
五一〇	岩国市	松田利彦	○
五一一	岩国市	杉本信恵	○
五一二	岩国市	井原豊	○
五一三	岩国市	林原梯二	○
五一四	東京都新宿区 若葉町一ノ四	大谷正男	○
五一五	東京都渋谷区 宇田	宇田垣	○
五一六	千葉県船橋市 宮本	岩沢忠泰	○

五二七	広島県 大竹町	中津井 真	○
五一八	岩国市 中津	酒井 清	○
五一九	日本交通公社 会長	高田 寛	×
五二〇	全日本観光連盟 専務理事	武部 英治	×
五二一	計画課長	出口 一生	×
五二二	日本交通公社 広島案内所	古川 定	○
五二三	岩国出張所 所長	藤原文 登	○
五二四	日航岩国出張所 所長	島本 豊	○
五二五	岩国市 錦見	岡崎 雲山	○
五二六	"	森戸 正人	○
五二七	"	大塚 百代	○
五二八	"	戸崎 正雄	○
五二九	毎日新聞本社 取締役代表社長	本田 親男	×
五三〇	事業部長	森口 忠造	×
五三一	事業部顧問	羽太 文夫	○
五三二	西部本社 取締役代表社長	藤原 勘治	○
五三三	事業部長	富岡 昭	○
五三四	山口支局長	丹羽 吉夫	○
五三五	岩国通信部主任	水野 時美	○
五三六	朝日新聞西部本社 社長	岡村 一郎	○
五三七	山口支局長	河村 博家	○
五三八	岩国通信部	二宮 建治	○
五三九	中国新聞 支局長	山本 建治	○

五四〇	中国新聞西部支局長	耕永 史郎	○
五四一	岩国支局長	山本 清	○
五四二	読売新聞山口支局長	阿久 沢半平	○
五四三	西日本新聞社長	田中 育之	○
五四四	防長新聞社長	佐々木 健児	○
五四五	岩国支局長	田中 豊	○
五四六	協同通信社	小田 堀定吉	×
五四七	時事新聞岩国支局長	末次 喜春	○
五四八	岩国タイムス	白本 竜	○
五四九	新芸防	吉永 慈	○
五五〇	周東新聞	土肥 素水	○
五五一	西日本新聞山口支局長	上山 徹	○
五五二	岩国通信部	大道 雅己	○
五五三	芸防家庭新聞	松並 成具	○
五五四	商工新聞	加納 正義	×
五五五	広島放送局長	杉本 亀一	○
五五六	放送部長	牧村 正勝	○
五五七	報道課長	木村 正勝	○
五五八	防府放送局長	宮田 孝造	○
五五九	放送課長	金子 喜三郎	○
五六〇	平松プロ	平松 幸彦	○
五六一	中国新聞山口支局長	藤野 美輝	○
五六二	中国新聞 支局長	山本 建治	○

五六三	日野組	日野賢	○	五六三	杉浦美社社長	杉浦由次	○
五六四	"	日野巧	○	五六四	"	村川捨太郎	○
五六五	"	山本光	○	五六五	吉元組	吉元和歌穂	○
五六六	"	田川秀信	○	五六六	鐵工會	堀川岩雄	○
五六七	"	西沢福次郎	○	五六七	"	岩根文一	○
五六八	"	西岡数登	○	五六八	"	豐島員彦	○
五六九	大和興産	上原源二郎	○	五六九	"	藤村松太郎	○
五七〇	宝建設社長	中津井実	○	五七〇	"	永光建二	○
五七一	日野組	下瀬数馬	○	五七一	"	梶村邦人	○
五七二	八木興業	八木定夫	○	五七二	"	田谷幾太郎	○
五七三	増田組社長	増田静子	○	五七三	"	上林四郎	○
五七四	日興土木社長	中村叶一	○	五七四	"	世並屋文明	○
五七五	"	栗栖貞三	○	五七五	"	村岡文人	○
五七六	八木興業	柏本人生	○	五七六	木材調達協同組合	藤井宇太郎	○
五七七	"	空本唯一	○	五七七	"	今西孫一	○
五七八	日興土木	河野実	○	五七八	"	清原正一	○
五七九	"	小笠原覚	○	五七九	"	桑田正光	○
五八〇	"	佐々木今美	○	五八〇	"	新田正光	○
五八一	"	谷村幸憲	○	五八一	"	三好肇	○
五八二	植木	西村博樹	○	五八二	"	戸沢正吉	○
五八三	塗装	広井勇一	○	五八三	"	柴山正人	○
五八四	岩国土建社長	伊原章	○	五八四	旭建築社長	片山嘉一	○
五八五	妹尾組	妹尾一兵衛	○	五八五	名古屋営林局長	相沢洲二	○
五八六	"	上俊章	○	五八六	上松営林署長		×

六二一	上松運輸管林署長	伊藤 正	○	×
六二二	三殿管林署長		○	×
六二三	王竜管林署長	柳 文治郎	○	×
六二四	大阪管林局長	近藤 助	○	×
六二五	日原管林署長		○	×
六二六	山口管林署長	原田 庄三	○	×
六二七	熊本管林局長		○	×
六二八	加、治木管林署長	伊地知 巖	○	×
六二九	延岡管林署長		○	×
六三〇	小林管林署長		○	×
六三一	錦帶橋架設協同組合	片倉 寅吉	○	×
六三二		篠原 経一	○	○
六三三		橋守 友穂	○	○
六三四		田中 常一	○	○
六三五		海老崎 条次郎	○	○
六三六		吉原 芦蔵	○	○
六三七		橋守 元一	○	○
六三八		廿木屋 元	○	○
六三九		福島 柳吉	○	○
六四〇		宮本 新一	○	○
六四一		西田 満男	○	○
六四二		小倉 五郎	○	○
六四三		海老崎 奈良次郎	○	○
六四四		海老崎 治郎	○	○

六三五	錦帶橋架設協同組合	福屋 唯男	○	○
六三六		茶屋 源三郎	○	○
六三七		山本 朝喜	○	○
六三八		大阪 豊	○	○
六三九		中川 政一	○	○
六四〇		世羅 義春	○	○
六四一	旧 関係者	中沢 五橋	○	○
六四二		樽本 理之助	○	○
六四三	エビス電工社長	一色 益雄	○	○
六四四	岩国造船社長	米山 七蔵	○	○
六四五	鉄 材	大屋 七蔵	○	○
六四六	三泰産業(鉄筋)	国重 七勝	○	○
六四七	セメン ト	山 政春	○	○
六四八		松金 久知	○	○
六四九	阪根産業(銅)	阪根 健三	○	○
六五〇		片岡 憲一	○	○
六五一		八幡 嘉一	○	○
六五二	三 洋 通商	山 泰	○	○
六五三	東洋木材防腐社長	江尻 登	○	○
六五四	取締役	宅岐 敏夫	○	○
六五五		栗原 敏夫	○	○
六五六	営業課長	久保 通清	○	○
六五七	工場長	野口 英一	○	○
六五八	山田大材支店長		○	○

六八二	〃	財政課長	森脇信雄	〇	〇
六八一	〃	會計課長	田中一生	〇	〇
六八〇	〃	稅務課長	松田好生	〇	〇
六七九	〃	總務課長	伊藤正一	〇	〇
六七八	〃	副収入役	井原淺一	〇	〇
六七七	〃	収入役	福本京巖	〇	〇
六七六	〃	〃	土肥京一	〇	〇
六七五	〃	助役	徳政繁生	〇	〇
六七四	岩国市長	久能寅夫	〇	〇	
六七三	三井本社營業部	田中穰二	×	〇	
六七二	〃	太田脩二	×	〇	
六七一	〃	目黒研究所長	〇	〇	
六七〇	〃	營業部長	平山威	×	〇
六六九	三井化学社長	石田健	×	〇	
六六八	鑄鉄業 (銜受銜鉄)	坂本義雄	〇	〇	
六六七	〃	桔梗清	〇	〇	
六六六	〃	桔梗智一	〇	〇	
六六五	鉾力組合	岩永計	〇	〇	
六六四	〃	山本哲生	〇	〇	
六六三	〃	渡辺一	×	〇	
六六二	〃	松永茂	×	〇	
六六一	〃	營業課長	中原管士	×	〇
六六〇	〃	日通岩国支店長	八尋茂	〇	×
六五九	〃	〃	〃	〇	×
六八二	〃	人事課長	岡本正	〇	〇
六八四	〃	衛生課長	金沢正吾	〇	〇
六八五	〃	民生課長	若林武	〇	〇
六八六	〃	都計課長	吉賀正義	〇	〇
六八七	〃	商工觀光課長	田島元	〇	〇
六八八	〃	農林水産課長	西川哲夫	〇	〇
六八九	〃	建築課長	池田金四郎	〇	〇
六九〇	〃	元課長	村中員義	〇	〇
六九一	〃	土木港灣課長	錦生利介	〇	〇
六九二	〃	水道課長	末広薫雄	〇	〇
六九三	〃	建築課次長	若松佐	〇	〇
六九四	〃	運輸課長	清水長重	〇	〇
六九五	〃	〃	太田富次	〇	〇
六九六	〃	岩国支所長	金子彦一	〇	〇
六九七	〃	麻里布支所長	戸津穆	〇	〇
六九八	〃	川下支所長	井上種三郎	〇	〇
六九九	〃	愛宕支所長	川田一平	〇	〇
七〇〇	〃	波装港支所長	波羅天	〇	〇
七〇一	〃	灘支所長	米本寿佐計	〇	〇
七〇二	〃	柱島支所長	牧本芦知	〇	〇
七〇三	〃	消防署長	鍛冶利吉	〇	〇
七〇四	〃	課長	篠原政男	〇	〇
七〇五	〃	〃	広重信一	〇	〇
七〇六	〃	西岩国出張所長	蔵野一	〇	〇
七〇七	〃	岩国市警署長	沖村義男	〇	〇

七〇八	副署長	神杉繁郎	〇
七〇九	課長	岡村熊一	〇
七一〇	"	山近信夫	〇
七一一	"	菊川茂	〇
七一二	"	和木勳	〇
七一三	"	山根吉男	〇
七一四	前市長(専門委員)	永田新之允	〇
七一五	前代議士	田村虎一	〇
七一六	助役	吉木虎夫	〇
七一七	前吏員	西尾保忠	〇
七一八	"	川口彦祐	〇
七一九	涉外囑託	西川忠男	〇
七二〇	岩国市議員	小川実	〇
七二一	"	粟屋篤	〇
七二二	"	重本真	〇
七二三	"	古田政美	〇
七二四	"	木原宏作	〇
七二五	"	塩井亮吉	〇
七二六	"	中山千代一	〇
七二七	"	森橋新一	〇
七二八	"	森重弁一	〇
七二九	"	柏村正一	〇
七三〇	"	江本平三郎	〇
七三一	"	桑田生助	〇
七三二	"	三浦三郎	〇

七三三	岩国市議員	朝倉正晃	〇
七三四	"	瀬村感	〇
七三五	"	森岡勝	〇
七三六	"	前西龍平	〇
七三七	"	富沢茂	〇
七三八	"	村井勇	〇
七三九	"	沖村初次郎	〇
七四〇	"	浅村円	〇
七四一	"	竹中七輔	〇
七四二	"	坂井正夫	〇
七四三	"	浜重甫	〇
七四四	"	松田清一	〇
七四五	"	河上佳生	〇
七四六	"	杉田朝次郎	〇
七四七	"	木戸正一	〇
七四八	"	川村義光	〇
七四九	"	西野義究	〇
七五〇	"	井本トシ	〇
七五一	"	岩村正夫	〇
七五二	"	中沢徳雄	〇
七五三	"	渡辺泰深	〇
七五四	"	木村栄作	〇
七五五	"	正木勇	〇
七五六	議員	森本四郎	〇
七五七	議員	三浦三郎	〇

七三八 元 員
 七五九 〃 〃
 七六〇 〃 〃
 七六一 〃 〃
 七六二 〃 〃
 七六三 〃 〃
 七六四 〃 〃
 七六五 〃 〃
 七六六 〃 〃
 七六七 〃 〃
 七六八 〃 〃
 七六九 〃 〃
 七七〇 〃 〃
 七七一 〃 〃
 七七二 〃 〃
 七七三 〃 〃
 七七四 〃 〃
 七七五 〃 〃
 七七六 〃 〃
 七七七 〃 〃
 七七八 監 査 委 員
 七七九 前 町 議 修 理 委 員
 七八〇 〃 〃
 七八一 〃 〃
 七八二 市 會 事 務 局 長

岡 本 四 太 郎
 佐 上 政 治
 沖 井 磯 吉
 森 戸 守
 沖 宗 助
 秋 本 俊 輔
 野 坂 宇 一
 吉 田 繁 人
 錦 本 一 郎
 河 村 政 一
 堀 本 哲
 村 重 梅 吉
 上 領 百 合 蔵
 善 岡 好
 戸 崎 芳 男
 国 重 久
 森 重 半 治
 突 永 清 人
 村 中 柳 助
 松 田 算
 德 富 菊 生
 坪 井 勝 通
 中 塚 勝 豊
 松 田 鶴 三
 村 岡 広 貞

七八三
 七八四 岩 國 市 公 安 委 員
 七八五 〃 〃
 七八六 〃 〃
 七八七 選 營 委 員
 七八八 〃 〃
 七八九 〃 〃
 七九〇 〃 〃
 七九一 〃 〃
 七九二 農 業 委 員
 七九三 〃 〃
 七九四 〃 〃
 七九五 〃 〃
 七九六 保 護 委 員
 七九七 公 平 委 員
 七九八 〃 〃
 七九九 〃 〃
 八〇〇 民 生 委 員
 八〇一 〃 〃
 八〇二 〃 〃
 八〇三 〃 〃
 八〇四 教 育 委 員
 八〇五 〃 〃
 八〇六 〃 〃
 八〇七 教 育 長

重 田 榮 治
 三 吉 悦 雄
 横 田 正 一
 吉 岡 俊 澄
 重 田 俊 伝
 村 田 惣 一郎
 上 田 政 生
 島 田 善 光
 村 重 俊 雄
 末 岡 勝 一
 高 倉 清 一
 土 井 清 司
 内 野 功 三
 藤 本 孝 一
 八 谷 義 夫
 佐 伯 信 夫
 篠 原 広 一
 広 田 於 兔 吉
 岡 迫 益 人
 森 川 無 事 郎
 丸 茂 忍
 藤 重 清
 岡 部 忠
 広 兼 弘 毀

八〇八	教育 總務課長	上林正幸	○
八〇九	社会教育課長	南部正己	○
八一〇	図書館長	松原俊夫	○
八一一	岩国徴古館長		○
八一二	岩高校長	石神正	○
八一三	岩商工高校長	篠原幹太	○
八一四	岩中校長	森山隆清	○
八一五	麻中校長	竹林隆雄	○
八一六	川中校長	松田勵	○
八一七	離中校長	新上清時	○
八一八	柱中校長	浜田太一	○
八一九	岩小校長	吉木恕平	○
八二〇	平田小校長	堀本薰	○
八二一	麻小校長	今村正雄	○
八二二	東小校長	守田嘉雄	○
八二三	川小校長	角義太郎	○
八二四	装港小校長	飯田勇雄	○
八二五	愛宕小校長	大岡昇	○
八二六	離小校長	弘中賢一	○
八二七	中洋小校長	広重春喜	○
八二八	錦帯橋建設局次長	品川資	○
八二九	工務課長	八賀盛藏	○
八三〇	總務課次長	美川武	○
八三一	技術吏員	中村正男	○

八三三	錦帯橋建設局事務吏員	藤枝正義	○
八三四	"	柳川壽之	○
八三五	技術吏員	森岡義則	○
八三六	"	水野昭夫	○
八三七	事務員	三戸直行	○
八三八	"	安藤久子	○
八三九	"	吉木友彦	○
八四〇	嘱託	藤川武男	○
八四一	"	柳川天流生	○
八四二	"	久保田忠雄	○
八四三	"	白銀屋力次子	○
八四四	前吏員	都志見克己	○
八四五	"	藤重良英	○
八四六	"	桑原香苗	○
八四七	"	藤岡暢子	○
八四八	固定資産評価委員	中村辰之助	○
八四九	"	三国徳太郎	○
八五〇	"	清貞博晟	○
八五一	"	坂本勇一	○
八五二	"	八百谷彌一	○
八五三	"	山県友雄	○
八五四	"	島田清一	○
八五五	駐留軍	二十五名	○
八五六	C A F 駐留軍	一名	○
八五七	"	一名	○

錦帯橋渡初式典費決算内訳

費目	金額	内訳	摘要
印刷費	五、三四五	1 案内状 八〇〇×二、三〇〇一、七六〇 五〇×二、九〇〇一四五 2 葉書 八〇〇×六〇〇四八〇 駐留軍案内カード 3 記念品包装紙一、〇〇〇×一、九〇〇一、九〇〇 三〇×二、〇〇〇六〇 4 〃 説明書 一、〇〇〇×一、〇〇〇一、〇〇〇	1 葉書を除き紙代共の代金とす 2 包装紙は山ハルの寄贈
通信費	一〇、四〇〇	1 葉書代 八五〇×五〇四、二五〇 2 案内状発送切手代 〇六、一五〇	
催物及び助成金	一二八、〇二九	1 大行列2組 {錦見 一八、〇〇〇 今津 一三、〇〇〇 大名籠担ぎ(衣料借料共) 一、五〇〇 餅撒(〇料米代橋賃共) 六、〇三〇 ラジヲ放送 三、四九九 5 観光協会行事等助成金 六、〇〇〇	放送関係設備及び物品購入協議会 アーチ、旗行列、打上花火
記念品費	一二三、七〇〇	1 記念品 一、〇〇〇個加工代 一三〇、〇〇〇 2 同上運搬費 三、七〇〇	吉川家内格納古材(襷)を中田木工所に加工委託
事務費	四四、二九五	1 文房具、用紙其他 二、二二五 2 徽章 三、三三〇 3 三代夫婦草履 四、五六〇 4 同上記念写真代 五、二〇〇	封筒、毛筆、用紙等 花形記章七三個 市長外八通り 三枚一組表紙付 八組 六五〇
小計	三二一、七六九		
1 土産用一級酒	九〇〇本×一五〇一、四〇、四〇〇		

酒香費	茶菓休憩費	宴会費	送迎輸送費	式場費
四八六、二三〇	八、六二〇	七二六、二八一	五九、七一〇	四三、〇九一
2 直会用二級酒 三五〇本×一〇四〇〇〇 3 駐留軍用ビール 三六本×一五〇〇〇 4 皿盛料理 八五〇人前×四〇〇 5 折詰弁当 九〇〇〇×二七〇〇 6 風呂敷 九〇〇×三二八、八〇〇	1 休憩所(旅館借上)に於ける費用 八、〇〇〇 2 薪炭その他 六二〇	1 深川(東京方面よりの高官) 三二、三四九 2 観光ホテル 九、六六〇 3 三原屋(県会議員) 六八、二五六 4 半月(東京本省及び県庁係官) 七五、三六〇 5 油政(十市議長会) 一〇四、〇五〇 6 久義万(十市々長会) 六八、七五八 7 白為(東洋木材関係) 一五、六〇〇 8 錦水軒(駐留軍) 四七〇、四〇〇	1 来賓送迎自動車借上料 構内タクシー 四三、八五〇 2 錦水軒立替 一、五〇〇 3 運輸課 優待乗車券(印刷代共) 七、四二〇 4 三代夫婦送迎バス 七、九五〇	1 式場用品購入 五、九七六 2 薪炭 六五 3 設備の人夫に弁当提供代 二、五〇〇 4 借用物件借上料 二、五〇〇 5 麻ロープ 一、六〇〇 6 材料 六、六〇〇 7 便所菜設 三、三〇〇
空瓶戻し 三九〇本×五二一、四七〇 〃 一本×三〇〇 一皿五人前 一七〇皿	白為、海部屋、米平	その他(委員会及び打合会、新聞社関係との懇談会) 二八、八四八 錦水軒は駐留軍を無断で招待せるものと建設大臣秘書官とのもの		式場用品はテープ、リボン立札用木材幔幕柱等 借用物件は天幕幔幕、椅子等材料は主として真砂

祭典費	七、五〇〇	祭壇謝礼 宮地神官 市木神官	二、三〇〇 五、〇〇〇	廣嘉公墓前奉告祭
その他	二〇、八〇〇	三代夫婦参列謝礼金 救護係を派遣された保健所に対する謝礼 三代夫婦に参列を御願いに訪問の際自動車代 重宗雄三氏宿泊の白雲荘の給仕に対する謝礼 火鉢破損補償金	二、〇〇〇×ハルハ六、〇〇〇 一、〇〇〇 一、三〇〇 一、五〇〇 一、〇〇〇	錦河原式場神事
合計	一、六六四、〇〇一			

(註)

一、渡初式の経費は総て錦帯橋持別会計よりの支出によって賄われた。式は時局柄簡素にと言う久能市長の意図を酌んで当初は予算を百万円としたが、次第に膨脹し決算に於ては百六十六万六千円の支出となった。

二、招待者数は九二三名、当日の臨席者は七七八名に及んだ。右の外新聞、ラッポの記者、写真班員約二〇〇名と目算され、その活躍振りは流石天下の名橋渡初式ならでは見ることの出来ない情景であった。

三、三代夫婦は一家に於て男系且直系たることを条件とし、各支所を通じて調査の結果市内に十組あることが判明、市長は服装等に堅苦しい規制を設けず努めて簡略にし全員喜んで気軽に参列して貰うよう希望したが、二組は病臥その他事故の為参加出来なかった。尙三夫婦の進行序列は抽籤によって決定した。

四、渡初式に於ける修祓等の神事には椎尾神社市木宮司、今津八幡宮今地宮司、愛宕神社鍵山宮司、白山神社宮地宮司の四人を又広嘉公墓前奉告祭には宮地宮司のみを祭司とした。

五、大名行列の渡橋には故事にならい、旧吉川藩主の乗用籠を繰り出し錦上花を添えることにした。

六、渡初式は式典に重点をおき、祝賀行事は完工式に持越す趣旨であったので、渡初式当日の行事としては撒餅、花火打上、角力、大名行列の繰出し、ラッポ放送、小中学生の旗行列、錦帯橋両側取付にアーチの設置程度に止め之等に少額の助成金を交付するに過ぎなかった。

七、錦帯橋の創建、爾後の保存は吉川広嘉公以降歴代の大きな治績の一であり、錦帯橋のことに關して、吉川家を無視すること

は出来ない。仍て吉川家当主重喜氏（在東京）に対しては予てより持に渡初式に参列方を要請していたが、遂に都合つかず同家執事吉田信夫氏が代理として帰郷参列した。

三、完工式

渡初式挙行後も河床々固その他の雑工事は引続き実施され三月三十一日には全工程を終えたので三月末建設局に於て完工式実施要領を作成、市長の承認を受け四月九日の市議会協議会に於て建設局次長より内容につき説明の上その賛同を得た。完工式は渡初と異つて極めて簡素に執り行う予定であつたからその準備も建設局及び本庁総務課員のみ協力によつて進めることが出来た。完工式の実施要領は次の通りとす。

- (1) 期日は五月三日とし市議会々議室に於て午前九時より行われる憲法記念式に引継ぎ実施する。
- (2) 経費は百万円を限度とし、式は成るべく簡単にして祝賀行事の助成金に多額を振り当てること。（完工式典費二十万円、助成金八十万円程度）尙百万円は一般会計より支出する。
- (3) 祝賀行事は恒例の春祭を兼ねて実施するものとす。之が為岩国観光協会をして行事を統轄せしめ助成金は一括して同協会に交付する。

行事の種類、助成額は関係者協議の上追つて決定すること。

- (4) 招待の範囲は (一) 市内関係は恒例の官公衙、会社、工場、学校、新聞社、放送局、民間団体代表 (二) 中央及び地方官庁は直接再建工事に関係のあつた部課の長及び担任官 (三) 工事請負業者関係は代表者のみとする。

当日の直会は蒲鉾及果物の皿盛りや冷酒一合という極めて質素なものであつたが、来賓十六名は式後錦水軒に招待し小宴を催した。

尚感謝状を贈呈された人々は

同 佐藤武夫 同

岩国市土木協会十一名代表 日野賢 金一封共

錦帯橋架設協同組合代表 篠原經一 同

同 建設鉄工会代表 梶川岩雄 同

同 用材調達協力組合代表 藤井宇太郎 同

旭建築有限会社代表 片山嘉一 同

東洋木材防腐株式会社 同

株式会社中村商店 山県政春 同

の九名である。

完工式に関する参考書表

(一) 完工式々次第

(二) 招待者名簡

(三) 完工式々典費内訳(予算決算対照)

(四) 完工記念春祭実施行事表

(註) 完工記念春祭は四十種以上に及ぶ多彩行事が展開されたが中でも芸能コンクール、しゃぎり、NHK話の泉、錦帯橋夜の篝火、平田囃田は行事中の白眉として人気の中心であった。

憲法記念式々次第

一、開式の辞

一、君が代齊唱

- 一、式 辞
- 一、祝 辞
- 一、閉式の辞

錦帯橋完工式々次第

伊藤 総務課長

久能 市長

品川 建設局長次長

青木 楠男、佐藤 武夫両博士 請負業者七名

山口 県知事(代)、県教育委員長(代)

郵政大臣代理 郵務局長 松井 一郎

伊藤 総務課長

- 一、観光百選錦帯橋記念切手二十四円及び十円初刷贈呈
- 一、市長謝辞
- 一、閉式の辞
- 一、直 会

招待者名簿

番号 職 種 氏 名 出欠席 摘 要

建設省関係	大臣	戸塚九一郎	欠	
大 官	稲浦鹿蔵	欠		
事務次官	富樫凱一	欠		
道路局長	米田三文	欠		
河川局長				

同局次長	伊藤大三	欠		
同 防災課長	浅村 廉	欠		
前 局技官	賀屋茂一	欠		
同局技官	山ノ内一郎	欠		

宇野千代	河上徹太郎	津田彌吉	栗栖越夫	重宗雄三	吉川重喜	郷土出身者 代理 關係	細川	桑原正三	武井貞賢	浦谷吉雄	平間修	同局記念物課長	同 次 長	同 事務局長	同 事務局長	文化財保護委員長	文化財關係	我妻	齊藤光男	田中甲三	広田久重	樋口哲司	重兼暢夫	同局技官
欠	出	欠	欠	欠	出		欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠

郵務局管理課	廣島郵政局長	郵政大臣代理	郵政省關係	商工部長	貿易觀光課長	同 文化係長	同 次 長	同 課 員	同 社会教育課長	同 次 長	教 育 長	同 庶務行政係長	同 部 道路課長	同 部 道路課長	同 庶務行政係長	同 技 官	同 次 長	同 河港課長	同 部 監理課長	土 木 部 長	總 務 部 長	副 知 事	知 事 代 理	山口具義係
中村事務官	安原武夫	松井一郎		小田義男	中野儀三人	河野英男	小林元	佐々木徳雄	岡田隆	金津新治	野村幸裕	岡田隆	伊木茂	井上三郎	山賀雅彦	安部武雄	行友誠	若林豐	永井重雄	橋本正之	永井重雄	出	出	出
出	出	出		出	出	欠	欠	出	出	欠	欠	出	出	出	欠	欠	出	出	出	欠	欠	出	出	

郵務局管理課切手係あて

費目	予算額	決算額	明細
報償金	二五、〇〇〇・〇〇		
賃金	一五、〇〇〇・〇〇		
消費品	三〇、〇〇〇・〇〇	一二〇、〇〇〇	奉書三五円、封筒八五円
食糧費	二五〇、〇〇〇・〇〇	七〇、一五〇・〇〇	二級酒二〇本代九、二〇〇円 と外に六、九八〇円 市長招宴五三、九七〇円
印刷製本	一六、〇〇〇・〇〇	七五〇・〇〇	自動車借用料
借損料	六三、〇〇〇・〇〇	四、〇〇〇・〇〇	案内状切手及び葉書代
通信運搬	一一、〇〇〇・〇〇		
委託料	四〇、〇〇〇・〇〇		
補助交付金	五五〇、〇〇〇・〇〇	九二〇、〇〇〇・〇〇	新聞社へ七万円 観光協会へ八五万円
計	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	九九五、〇二〇・〇〇	

金一百万円也……………予算額
 金九十九万五千二十四円也……………決算額

錦帯橋完工式々典費（一般会計）

通信（事業課長）	山下武夫	出	毎日日本社	羽太文夫	出
持物館			土木出張所長	佐藤寿郎	出
其の他				永田新之允	欠
広島放送局	杉本龍一代	出		瀬川秀雄	欠
	木村放送課長	出		富岡事業部長	出
防府放送局	宮田孝造代	出	毎日新聞社長代	市木県議	出
同放送課長	金子喜三郎	出	理西部本社	朝枝	出
	佐藤武夫	出		"	出
	青木楠男	出			

右の外は恒例の市役所備付名簿に依る招待者とす。

感謝状に添え贈呈された記念品代及び金一封 県下十市役所職員義陸大会補助金一〇万円
 新聞社への不足分五万円、平田囃田出演助成二万五千元は別途負担。

錦帯橋完工記念春祭り実施行事表

全国小・中学生習字展	四月三・四・五日	岩小講堂
全国バレーボール大会 中国予選会	五日	帝人コート
花祭り	八日	錦劇
観光土産品展	十一・二日	錦川原
学生相撲大会	十一日	白崎八幡宮境内
スクエア・ダンス大会	十一・二日	吉香公園梅林コート
華展	十一日より十三日まで	岩小講堂並びに水西書院
近県硬式卓球大会	十二日	東小講堂
観光春の市民野球大会	十九日	岩小校庭
自転車競走大会	十九日	岩高校庭
市内学徒書道展	十三日より十五日まで	今津公栄館
岩日線着工記念(広瀬岩国間) 駅伝競走大会	二十九日	広瀬出發岩国駅着
花柳美術展	五月一日より七日まで	教育庁階上
錦帯橋文化史展	一日より十日まで	徴古館
河上先生講演会	二日	徴古館
◎山口県芸能コンクール	三日	図書館上
ミス錦帯橋選彰会	三日	錦川原舞台
名士演芸大会	三日	〃
能大会	三日	吉香公園能舞台
茶会	三日	白雲荘(錦帯橋通り) 上領病院宅(今津)

◎しゃぎり繰出し	〃	三日並びに五日	西岩国
◎近県相撲大会	〃	三日	錦川原
花火打上(湯来湯泉招待)	〃	三日	〃
近県弓道大会	〃	三日	横山グラウンド
俳句大会	〃	三日	岩高
観光切手「錦帯橋」発行記念 郵便切手展	〃	三日より五日まで	横山徴古館
◎NHK 話の泉	〃	五日	東小講堂
近県合唱祭	〃	五日	岩高音楽室
学童錦帯橋写生コンクール	〃	五日と十日	錦帯橋附近
観光写真コンクール展覧会	〃	三日より十日まで	図書館階上
全国孔版展	〃	〃	〃
映画スチール展	〃	〃	〃
全国書道展	〃	五日より七日まで	岩小講堂
近県弓道大会	〃	十日	帝人道場
◎競馬大会	〃	十六・十七日	錦帯橋上グラウンド
近県庭球大会	〃	十七日	吉香公園梅林コート
高校野球大会	〃	三十一日	岩高校庭
平田囃田	五月	三日	錦川原